

日本女子体育大学における伝統ダンス

Traditional Dance' at Japan Women's College of Physical Education.

松徳会伝統ダンス継承検討委員会

Shotokukai Traditional Dance Heritage Preservation Committee

寺山喜久¹⁾ 針替紹子²⁾ 荒井葉子³⁾ 吉村由紀⁴⁾ 桂 眞弓⁵⁾

Kiku TERAYAMA, Tsugiko HARIKAE, Yoko ARAI, Yuki YOSHIMURA,

Mayumi KATSURA

Abstract

When Nikaido Gymnastics Private School started as an authorized college, there was a dance lesson by older students after dinner in the dormitory life. This activity was called 'Traditional Dance' and had been passed down from seniors to juniors for a long time. The Committee conducted a questionnaire survey in September 2020 to investigate what 'Traditional Dance' was like and how it affected graduates. The subjects were the alumni association prefectural branch managers. The analysis was conducted from the following perspectives; (1) transitions of the college curriculum, (2) 'Alumni Dance Workshop', (3) group performances at Japanese gymnastics competitions, Asian competitions and others, (4) 'Dance Trip', (5) dance in the evening in the dormitory life.

I はじめに

日本女子体育大学の創設者二階堂トクヨ先生は、女子体育にダンスが重要であるとの思いが、二階堂清寿学長にも継承され、短大時代に戸倉ハル先生の学校ダンス、江口隆哉先生のモダンダンス、天野蝶先生の独自のリトミック(身体でリズムを表現)を加えたダンスが日女の特色あるダンス教育として伝統を支えた。

「女子体育の母 二階堂トクヨ伝」二階堂清寿、戸倉ハル、二階堂真寿の共著によると、松原の山谷の塾で先生が自ら作られたものを教えたり、生徒が覚えてきたものを先生がなおしながら覚えたおのが次第にふえた。これを誰が言うことなく伝統ダンスと名づけられるようになったものであると記述されている。しかし、今や伝統ダンスって何…と大学教員からも問われる時代になっている。

この伝統ダンスを検証するために、卒業生が戸倉ダンス・江口ダンス・天野式リトミックを行っている現状把握と大学教育課程カリキュラムの変遷、ダンス講習会、日本体操祭、アジア大会等での集団演技、また、ダンス旅行が映像

の直ぐ見られない時代に、全国に直接学生が踊り動く姿をみせた学生の誇り、そして、観てくれた生徒たちに日本女子体育短期大学・日本女子体育大学に憧れを抱かせた。地方の女子体育振興に与えた役割等から考えてみることにした。

卒業生は単に懐かしい思い出でだけでなく、卒業後、指導者として、更に健康な生活を送るには有益なこととして身をもって体験している。このことを踏まえ、松徳会が主体となり日女の卒業生の宝である伝統ダンスの継承と、高齢化社会に対応した伝統ダンスの現代化へつなげるために、2019年度から3か年計画で研究を進める。(日本女子体育大学を省略し日女とする)

II 研究方法

対 象：日本女子体育大学同窓会 松徳会都道府県支部長

アンケート回収：47 都道府県松徳会支部長 34 回収 回収率 72.34%

会員協力（静岡県・兵庫県）8 合計数 42

アンケート発送：2019(令和元)年 8 月 9 日

アンケート締切日：2019(令和元)年 9 月 13 日

《アンケート調査項目について》

- 1 卒業年 学部・短大 学科名 専攻名
- 2 在学中のダンスの授業について、受講したものに○印をつけてください。
 - 1) リトミック（天野式） 2) 江口ダンス 3) 戸倉ダンス
 - 4) 学校ダンス 5) モダンダンス 6) 中島花ダンス
 - 7) クラシックバレエ 8) 日本舞踊 9) ジャズダンス
 - 10) タップダンス 11) その他
- 3 今までに伝統ダンスという言葉を知ったことがありますか
 - 1) ある 2) ない
- 4 「ある」と答えて方に聞きます
伝統ダンスという言葉を知った方法をどのように理解していますか（簡単にお答えください）
- 5 日女で学んだダンス（作品等）を教えたことがありますか
 - 1) ある 2) ない
- 6 「ある」と答えた方は何を指導しているか、いたかを具体的に列挙してください
- 7 最近（5年以内）学校関係（幼・小・中・高・大）、地域活動で戸倉ダンス・天野リトミックを行っているのを見たこと、聞いたことがありますか

すか。

- 1) ある 2) ない

- 8 「ある」と答えた方は戸倉ダンス・天野リトミックのどちらですか。又、
①学校関係 ②地域関係のどちらで行っているかを（ ）内に番号を記してください。

- 1) 戸倉ダンス（ ） 2) 天野リトミック（ ）

II 研究結果・考察

アンケート調査項目に沿って考察する。

1 アンケート回答者の卒業年・学部・短大

表 1 アンケート回答者の卒業年（表 1・図 1）

アンケートした 42 名について、学部卒・短大卒に分け、その卒業年の傾向をみた。学部創設の初めての卒業生は昭和 42 年（1967）であり、日本女子体育短期大学の廃止は平成 12 年（2000）7 月 28 日である。

アンケートに答えてくれた人は、昭和 31 年卒（1956）から昭和 63 年卒（1988）までの人であり、年齢的にいうならばアンケート調査日（令和元年 9 月）から推定すると、50 歳代後半から 83 歳までの人が松徳会の活動に関わっていることがわかる。表 1・図 1 からは平成の卒業生は、支部長としての活躍はみえてこないが、支部長と共に協力して支部活動を行っていると思われる。

ダンス旅行は昭和 26 年から昭和 44 年まで 19 回実施。昭和 26 年終戦後、学制改革で専門学校から短期大学になった年から実施されている。まだ交通機関や食糧事情悪化の時から、今日まで毎年各地の松徳会や開催地関係団体の協力を得て「ダンス旅行」を実施している表 11（「ダンス旅行」参照）

アンケート回答者の年齢を、図 1 からみると、松徳会支部長は学部が創設されてから短大卒者が少しずつ減少し、それと反対に学部卒者が増加していることが顕著にあらわれている。特に昭和 51 年（1976）卒から 5 年間の学部卒業生が、松徳会支部長として多くの人が活躍している事がわかる。

これらの卒業生が大学での授業、カリキュラムにおけるダンスがどのように設定されていたのかを見ることにより、伝統ダンスとの繋がりが明らかにしたい。

次に卒業年を 5 年間刻（表 1）みでカリキュラムにおけるダンス授業がどのように位置づけられていたかを検証する

- ①学部卒昭和 41 年（1966）～45 年（1970）
②学部卒昭和 46 年（1971）～50 年（1975）
③学部卒昭和 51 年（1976）～55 年（1980）

- ①短大卒昭和 36 年（1961）～40 年（1965）
- ②短大卒昭和 41 年（1966）～45 年（1970）
- ③短大卒昭和 46 年（1971）～50 年（1975）

次のカリキュラムは学生便覧から抽出したものである。

①学部卒の昭和 41 年～45 年のカリキュラム

☆昭和 40 年度からのカリキュラムが変更になっている。

- 1 年次…ダンス I（必修）
- 2 年次…ダンス II-1（必修） ダンス II-2（選択）
- 3 年次…ダンス III-1（必修） ダンス III-2（各種舞踊：選択）
- 4 年次…ダンス IV（選択）

②学部卒昭和 46 年～50 年

☆昭和 45 年度からのカリキュラムが変更になっている。

- 1 年次…ダンス I-1（必修） ダンス（リトミック） I-2（選択）
- 2 年次…ダンス II-1（必修） ダンス II-2（選択）
- 3 年次…ダンス III（必修）
- 4 年次…ダンス IV-1（選択：理論を含む） ダンス（モダンダンス）
IV-2（選択）

③学部卒昭和 51 年～55 年

☆昭和 53 年度からのカリキュラム

- 1 年次…ダンス I（必修）
- 2 年次…ダンス II-1（必修） ダンス（モダンダンス） II-2（選択）
- 3 年次…ダンス III-1（必修） ダンス（各種舞踊） III-2（選択）
- 4 年次…ダンス IV（選択：理論を含む）

学部創設当初昭和 40 年（1965）から、ダンスの授業が 3 科目必修科目として位置付けられていたが、昭和 63 年（1988）には 2 科目に減り平成 11 年（1999）にはダンスの必修がなくなり選択必修のみである。この状況から、日女のダンスが影が薄くなる。しかし、平成 15 年（2003）には、伝統あるダンス教育の充実を図りたいという気運が高まり「ダンス・ファンダメンタル」の科目が、舞踊学専攻を除く 3 専攻に必修として設置された。

選択必修として「ダンスメソッド」が位置付けられてはいる。ダンスの苦手な学生が選択していることを臨みたい。必修科目ではないが選択科目として昭和 45 年（1970）にリトミック・モダンダンスの科目が設置されている。

1 科目のダンス必修科目設置で、学生全員のダンス能力を上げるかは疑問が

残る。ダンスの選択科目でそれを補おうとしていると考えられる。

伝統ダンスとは何かとの質問に、戸倉ダンス・江口ダンス・天野式リトミックと回答している人が多い。しかし、科目名からみえてこないがその科目担当者を知ることによって伝統ダンスといわれる3名の先生方、戸倉ハル、江口隆、天野蝶の名前がある。

参考

- ・昭和63年(1988)
学部…ダンスの必修2科目 選択5科目
- ・平成元年(1991)
学部体育学科に3つのコース設置：運動学・体育学・健康体力学
- ・平成2年(1992)
学部体育学科に芸術スポーツコース増設
- ・平成11年(1999)
学部体育学科改組し運動学科、スポーツ健康学科を増設
短期大学募集停止
スポーツ方法実習Ⅰ・Ⅱ(選択必修) ※ダンスの必修がない(舞踊学専攻を除く)
- ・平成15年(2003)
スポーツ科学専攻、健康スポーツ学専攻、幼児発達学専攻に「ダンスファンダメンタル」の科目を開設し伝統であるダンス教育の充実を図る

短大についてのカリキュラムのダンスについて述べる。しかし、昭和36年度(1961)～44年(1969)学生便覧を見つけることができなかつたので昭和45年度から検証する。

☆昭和45年度(1970)からのカリキュラム

《体育専攻》

リトミックダンスⅠ・Ⅱ 体育ダンスⅠ・Ⅱ モダンダンスⅠ・Ⅱ

学校ダンスⅠ・Ⅱ⇒2単位必修とし他選択

リトミック担当：山本数子 体育ダンス担当：松本民子

モダンダンス担当：江口隆哉 学校ダンス担当：中島花

☆48年度からのカリキュラム

《体育専攻》

ダンス(A)Ⅰ ダンス(B)Ⅰ ダンス(C)Ⅰ

ダンスⅠ(D)⇒1科目必修とし他選択

ダンス (A) II ダンス (B) II ダンス (C) II

ダンス I II (D) ⇒1 科目必修とし他選択

以上の事から、短大のカリキュラムにおける必修のダンスの位置づけは学部と同じである。しかし、短大の場合は、他に選択科目として3コマのダンスが選択できるようになっている。ここに短大のダンスの位置づけの大きさを知ると共に、伝統ダンスといえ認識が生まれているのではないだろうか。

2 日女の在学中、学んだダンスの授業科目名 (表 2・図 2)

表 2・図 2 でもわかるように、受講者数が非常に多い科目とそうでない2極化している。非常に多く受講している科目は戸倉ダンス 58名、江口ダンス 47名、リトミック(天野式)29名であり、伝統ダンスとは何かのアンケートの項目4とのつながりが明確にあらわれている。非常に少ない科目タップダンス、スペイン舞踊、パントマイムは、短大舞踊専攻だけに設置されていた科目である。即ち、アンケート対象者に舞踊専攻の卒業者が少なかったこともその理由であろう。また、そこから都道府県の支部長の年代がみえてくる。

3 今までに伝統ダンスという言葉聞いたことがあるかどうかの質問について (表 3・図 3)

伝統ダンスという言葉聞いたことがある人は、約8割で非常に多いことがわかる。その言葉を聞いたことのある人の卒業年(5年刻み)をみると、昭和46年(1971)～50年(1976)までの人が少し減ってはいるが、昭和31年(1956)～55年(1980)までの20年間の卒業生は、伝統ダンスという言葉聞いたことがあると答えた人が多くなっていることが、顕著に表れている。

昭和31年(1956)～55年(1980)までの20年間における大学の事業として、マスゲームの発表があげられる(表 10) (資料戸倉ハル「マスゲーム作品発表」参照)日女は昭和28年(1953)5月3日に行われた第7回憲法発布記念体育大会に参加している。翌年からも、明治神宮外苑競技場(後の国立競技場)で開催された第1回「朝日体操祭」に参加。その年より昭和43年(1968)第15回「日本体操祭」(昭和39年「朝日体操祭」は、「日本体操祭」へと名称を変更している)まで、16回参加をしている。また、昭和33年(1958)には第3回アジア競技大会、昭和38年(1963)には「東京オリンピック前年祭」翌39年(1964)には「東京オリンピック前夜祭」にも参加するなど輝かしい記録が残っている。参加者は主に当時の短大生と考えられるが、参加人数の推移をみると昭和30年(1955)に300名、その後35年(1960)ごろから600名を超えて昭和41年(1966)には1000名となっている。これは、大学拡充とダンスカリ

キュラムの充実が反映した結果と考えられる。

学生全員でのこの集団演技の練習は、烏山グラウンドで行われた。5月の休日全て返上し、一つのマスゲームを共有し、心を一つに創り上げた精神は、日女魂を構築したといっても過言ではない。それが伝統ダンスとして卒業生の心に刻み込まれていると考えられる。

更に、日女を地方へアピールしたのがダンス旅行である。ダンス旅行は、昭和26年（1951）から昭和44年（1969）まで19回実施。昭和26年（1951）終戦後、学生改革で専門学校から短期大学になった年からある。まだ交通機関や食糧事情悪化の時から、毎年各地の松徳会や開催地関係団体の協力を得て「ダンス旅行」を実施している。表11 ダンス旅行資料参照

又、カリキュラムにおけるダンスの位置づけ、ダンス旅行だけでなく、伝統ダンスを日女以外の人たちに広めていった一つに「ダンス講習会」がある。その変遷を見てみると、昭和17年（1942）に「体操遊戯の講習会」として講習会が始まった。2回目は次の年に行われた体操・行進遊戯・教練等の講習であった。第3回（1946年）から名称を「夏期研究会」として開催される。第10回（1953年）から「ダンス夏期講習会」として5日間開催され、ここで伝統ダンスといわれる戸倉ハル（～1968年迄）・天野蝶（～1974年迄）・江口隆哉（～1975年迄）の講師名がみえる。

「ダンス夏期講習会」は「夏季ダンス講習会」と名称を変えて第33回（1983年）迄続き終止符を打つ。

その後、松徳会主催の夏期研修会として復活をする。

第1回（1983年）「夏季体育指導者講習」として3日間開催され、金井芙三枝（江口ダンス）によるダンス創作法やデンマーク体操、ジャズ体操などの講座が開かれた。第2回（1984年）からは「夏季体育指導者講習会」、第5回（1987年）から「夏期体育指導者講習会」、第18回（2000年）から「夏期体育研究会」と名称を変えながら第32回（2014年）まで開講され多くの受講者が全国から参加した。第33回（2015年）からは「日本女子体育大学松徳会セミナー」と名称を変え、松徳会が主催し開催場所を東京から地方へ移行した。岩手県盛岡市⇒京都市⇒群馬県水上温泉⇒岡山市⇒静岡県熱海市と続いている。

講座内容では基調講演と東京都レクリエーション協会の単位取得講座を基本として、ダンスや体操などの実技種目を多彩に展開した。その中で「伝統ダンスに関する講座」の推移をみると初期のころは講座の中心となっていたが、徐々に新体操やジャズ体操、エアロビクス等の健康体操系の講座が多くなり、「伝統ダンスに関する講座」が縮小され開講されなくなった。

昭和17年（1942）に始まり戦争での中断があったものの、令和の時代の今ま

で継続されている伝統ある「ダンス講習会」は卒業生の財産でもある。

4 伝統ダンスという言葉聞いたことのある人に聞きます

伝統ダンスをどのように理解しているか簡単にお答えください。

数字は人数を表している。

- ・日女体でしか学べないダンス(日女独特のカリキュラム)：6
- ・トクヨダンス：3
- ・トクヨ先生の教え：1
- ・二階堂トクヨ指導➡戸倉ハル指導➡後輩へ伝える：1
- ・二階堂トクヨ➡戸倉ダンス・江口ダンス・リトミック➡次世代に伝える：3
- ・戸倉ダンス(学校ダンス含む)：13
- ・日本伝統の学校ダンス：1
- ・リトミック：6
- ・江口ダンス(モダンダンス含む)：3
- ・学校のみ伝えられる特別なもの、伝えていくべきもの：1
- ・踊り継がれていくダンス：1
- ・踊り継がれてきた(動きの良さ、曲の良さ)味のあるダンス：1
- ・女子体育の始まり：1
- ・体育教育(文化・風習も含む)をかえた、重要な役割を果たしてきた：1
- ・民族舞踊・芸能として踊り継がれているダンスや舞踊：1
- ・日本の歌にあわせて踊るダンス：1
- ・伝統的な動きを中心にゆったりしたテンポの集団演技：1
- ・伝えていきたい日本のダンス：1

伝統ダンスは、踊り継がれ伝えていくものと理解している人が多い。初期はトクヨダンス、その後、戸倉ダンス・江口ダンス・天野式リトミックは当時の日女独自のダンスカリキュラムであったと推察できる。特に戸倉ダンスを伝統ダンスと理解している人は、卒業後も指導者として集団演技や授業等に取り入れたことのある履修者が、自ら次世代に伝えていこうという事がアンケート結果らみられた。

伝統ダンスを、戸倉ダンス・江口ダンス・天野リトミックと受けとっている卒業生が多い。実際にマスゲーム(集団演技)においても、これらの作品を多く発表していたことが表 10 戸倉ハル「マスゲーム作品発表の歴史」からわかる。このことから、この年代の卒業生は、特に多くの戸倉作品を習得していたと考

えられる。そして、卒業後、自ら指導者として次の世代へつないでいると推察される。たとえば、体育教師になった卒業生は、学校行事で行われる運動会などを通し、日女で学んだマスゲームを次世代へとつなげていたに違いない。つまりマスゲームは伝統ダンスの継承に大いに寄与していたといえる。

- 5 日女で学んだダンス（作品等）を卒業後教えたことがありますか。
- 6 日女で学んだダンス（作品等）を卒業後教えたことが「ある」と答えた人の卒業年。
- 7 日女で学んだダンスを卒業後教えたことがある人は何を指導したか具体的に列挙してください。

アンケート項目 5～7 は関連のある項目なので総括的に考察をする。

アンケート回答者の 78% が大学で学んだ作品を、卒業後、教えたことがあると答えている。卒業後、8 割弱の人が指導者として実際に活躍をし、教育現場で貢献していることがわかる。このように指導している卒業生の卒業年を 5 年刻みで調査したのが表 6・図 6 である。これによって卒業生の年齢の活動範囲を知ることができる。このように卒業後、大学で学んだ作品を教えた卒業年をみると昭和 31 年卒～55 年の人であることが表からわかる。そして、昭和 46 年卒～昭和 50 年の卒業生が非常に積極的に大学で学んだ作品を教えていることがわかる。

どのような作品を指導したのかの調査結果が表 7・図 7 の通りである。戸倉ダンスを教えていた人が一番多いが、リトミックと江口ダンスは同じように卒業生の指導での財産であった事が明らかである。

この時代、学生として学んだカリキュラムでのダンスの位置づけや、大学の教育的事業関係に非常に興味がでてくる。特に、戸倉ダンスが卒業後も指導に大いに役立てられ、日女の特徴ある独自のダンスを広めていることが明らかである。また、リトミックと江口ダンスも戸倉ダンス程数的に多くはないが、卒業生には指導にあたって大いに役立つ教材だったといえる。

この 3 つのジャンルのダンスは、授業科目に指導者の名前がつけられ重要な科目ではないだろうか。リトミックは、天野先生の名が記述されていないが、日女ではリトミックといえば天野式リトミックを意味している。

このように授業科目に個人の名前が入っている。戸倉ダンスは学校ダンス、江口ダンスがモダンダンスと名称を変更しながら、継承されていることがわかる。

- 8 最近（5年以内）学校関係（幼・小・中・高・大）、地域活動で、戸倉ダンス・天野リトミックを行っているのを見たこと、あるいは聞いたことがありますか（表 8・図 8）

ここでは、戸倉ダンスと天野リトミックの2つのジャンルについてのみ質問をしている。その理由は、江口ダンスは現在モダンダンスとして大学の授業やモダンダンス部で大いにその実績を残し継承されているからである。

アンケートの質問項目 3 伝統ダンスという言葉聞いたことのある人が約8割であったが、実際近年で見聞きしているのは約半数の45%である。伝統ダンスが卒業生の身近にあったものが近年では離れてきていることがわかる。

- 9 最近（5年以内）学校関係・地域活動で、戸倉ダンス・天野リトミックを行っているのを見たこと・聞いたことがあると答えている人は、それぞれ学校関係か地域活動かを記してもらった（表 9. 図 9）

アンケートを実施した令和元年9月に視点をおき、5年以内を限定し、現在の状況を知ろうとしたものである。

調査結果から、天野式リトミックは学校ではなく、地域で卒業生が指導し広めていることが顕著に表れている。その反面、戸倉ダンスは学校の教育現場で行われていることがわかる。

中学校の指導要領改訂が昭和47年（1972）、高等学校が昭和48年（1973）に行われ、ダンスがフォークダンス・創作ダンスによってダンスの技能を養いフォークダンスを踊ることや作品を創作することができるようにするとある。しかし、それ以前の昭和31年（1956）改訂の高等学校では、必要に応じ既成作品によって各種の表現方法を知るとしている。昭和26年（1951）中・高等学校の指導要領改訂では既成作品の作品名が記述され戸倉ハルの作品が次のようにあげられている。

中学校：田毎の月、みのり、喜び、追い風、こちょう。高等学校：集い、森の朝、ブラームスのワルツ、朝なご、鐘、フラワーソング。昭和22年（1947）改訂指導要領には、ダンスは民踊その他参考作品として用いてよい。と記述されている。指導要領ではリトミックという言葉を見ることができない。これは日女の独自のカリキュラムの位置づけと考えられる。

III おわりに

トクヨ先生が体操塾時代、自ら創られた作品を指導したり、生徒が覚えてきたものを直しながら覚えたものを、後に誰がいうともなく伝統ダンスと名づける

ようになったといわれている。それが日女のダンスを常に擁した3人の指導者、戸倉ハル先生、江口隆哉先生、天野蝶先生の名前のダンスが伝統ダンスといわれている。それらは、カリキュラムに位置付けられている3人のダンスの授業からも明らかである。又、全寮制からスタートした寮生活の夜のダンスでは、上級生が下級生を指導することで指導力を見につけると共に、学生の縦・横の繋がりを深く強くし、伝統ダンスへの想いも同じように深く強くしていったと考えられる。

卒業後も学ぶ意欲を掻き立てるダンス講習会は、卒業生に学ぶ機会を与えてくれたことへの感謝と、参加した人たちの横のつながりが強まることは当然といえる。ダンス旅行に選ばれた誇りを持った20名の学生の演技は、中学生・高校生の心を揺さぶり、その羨望のまなざしは日女への関心を十分に持たせたといえる。ダンス旅行の演目にも「江口ダンス」「戸倉ダンス」「天蝶式リトミック」が色濃く残っている。それは、日女への入学希望を示唆しているともいえる。

その後、多様な動きの展開にあっといわせる「江口ダンス」は、現在モダンダンスとして授業・部活動で継承されている。又、動きに隙のないなめらかさと強さで表現している「戸倉ダンス」は一つの部活動で継承されているが、授業科目としては設置されていない。そして、瞬時に呼令に対応できる身体能力を必要とする「天野式リトミック」は、保育科の授業に位置付けられ継承されているが、他の学科では学ぶ機会がない。

この検証研究の目的は、日女の卒業生の宝である伝統ダンスの継承と高齢化社会に対応した伝統ダンスを現代化へつなげるためのものであり、日女の伝統として広く受け継いでもらいたいと思う。

最後にアンケートに協力して下さった支部長及び役員の方々に心より感謝申し上げます。更に資料提供をして下さいました日女の学生支援課の方々に感謝申し上げます、

参考文献

G 学校法人 二階堂学園 佐々木等編集

「二階堂学園発展史」P136～151

昭和44年11月(1969) 不味堂

G 学校法人 二階堂学園 「二階堂学園60年誌」P280～287 (1981)

二階堂学園 東京都世田谷区北烏山8-19-1

M 文部省・文科省 「中学校・高等学校学習指導要領 保健体育編」

昭和22年(1947)～平成25年(2013)

- M 松本民子（1984）日本体操祭と戸倉ハル作品によるマスゲーム
「日本女子体育大学 紀要第 14 巻」 P61～72
日本女子体育大学 東京都世田谷区北烏山 8-19-1
- N 日本女子体育短期大学 「学生便覧」
昭和 31 年（1956）～昭和 40 年（1965）
昭和 45 年（1970）～昭和 50 年（1975）
日本女子体育短期大学 東京都世田谷区北烏山 8-19-1
- N 日本女子体育大学 「学生便覧」
昭和 40 年（1965）～昭和 63 年（1988）
平成 1 年（1985）～平成 31 年（2019）
日本女子体育大学 東京都世田谷区北烏山 8-19-1
- N 日本女子体育大学同窓会 松徳会
「松徳会会報」 ダンス旅行記
昭和 26 年（1961）～昭和 44 年（1969）
日本女子体育研修会館 松徳会 東京都世田谷区北烏山
8-18-36
- N 日本女子体育大学同窓会 松徳会
「夏期（季）講習会要項」
昭和 58 年（1983）～（2014）平成 26 年
「松徳会セミナー要項」
平成 27 年（2015）～令和元年（2018）
日本女子体育研修会館 松徳会 東京都世田谷区北烏山 8-18-36
- N 二階堂清寿 戸倉ハル 二階堂真寿共著
「女子体育の母 二階堂トクヨ伝」 P129～132
昭和 32（1957）年 4 月 10 日不味堂書店
東京都文京区大塚 3-8-1
- N 西村絢子 「体育に生涯をかけた女性—二階堂トクヨ—」
昭和 58 年（1983）8 月 1 日 杏林書院
杏林堂 東京都文京区湯島 4-2-1